

TDB 景気動向調査(全国・概要) — 2007年9月調査 —

2007年10月4日

お問い合わせ先：株式会社帝国データバンク 産業調査部

電話：03-5775-3163 e-mail：keiki@mail.tdb.co.jp

http://www.tdb.co.jp/

景気動向調査専用 HP http://www.tdb-di.com/

景気DIは41.9、2年7カ月ぶりに42ポイント割れ

～ 世界経済の下振れ懸念拭えず、原油価格の史上最高値更新も景況感を押し下げ ～

(調査対象2万717社、有効回答企業9,863社、回答率47.6%)

2007年9月の景気動向指数(景気DI：0～100、50が判断の分かれ目)は41.9となり、前月比0.6ポイント減と6カ月連続して悪化。2005年2月(41.9)以来31カ月(2年7カ月)ぶりに42ポイント割れとなった。

前月(8月)までの概況

- 2007年4月以降、個人消費の回復遅れや原油価格の再騰などにより企業の生産活動や設備投資に一服感が台頭し、景況感は再び弱含みの展開へ
- 7月以降は、米サブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅融資)問題の表面化によって、米住宅景気への懸念や世界的な信用収縮への警戒感が増幅。円高ドル安が急速に進行したこともあって、景気DIの悪化に歯止めがかからず

9月の概況

世界経済の下振れ懸念払拭されず

金融不安に歯止めをかけるため、FRB(米連邦準備制度理事会)は9月18日にFF(フェデラルファンド)金利の誘導目標を0.5%引き下げたが、世界経済の下振れ懸念払拭には至らず、『金融』『不動産』をはじめ幅広い業界で引き続き景況感が後退

原油価格が再び上昇、史上最高値を更新

やや落ち着いたNY原油先物相場(WTI、期近)が、メキシコ湾岸での悪天候による供給不安などによって月末に初めて一時1バレル=84ドルを突破し、鉄鋼や化学関連業種を中心に景況感が悪化。相次ぐ消費財の値上げも個人消費に悪影響

改正建築基準法の施行による建築確認の遅れ・手控え拡大

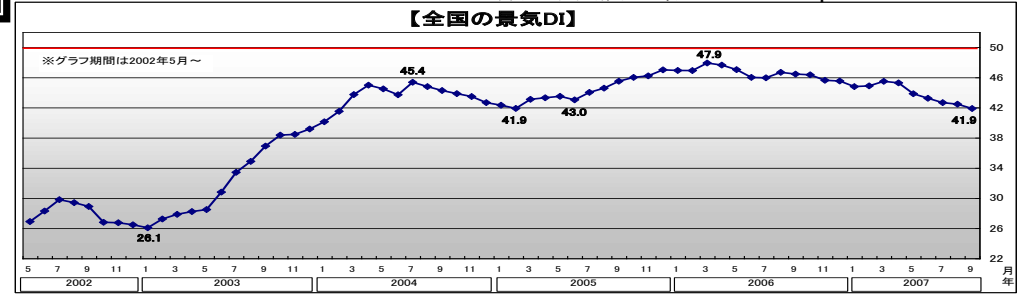
2007年6月の「改正建築基準法」施行により、前月から目立ち始めた建築確認の長期化や手控えが拡大、この影響が建材や鉄鋼などの周辺業界に波及

一服感が台頭していた企業の生産活動や設備投資は、米住宅景気の後退懸念拡大とそれに伴う世界経済の下振れ懸念、円高の進行など、これまでくすぶっていたリスクが相次いで顕在化したことさらに減退。足元経済は下支えを失いつつあり、規模・業界・地域間格差も縮小しないまま弱含みの展開が続いている

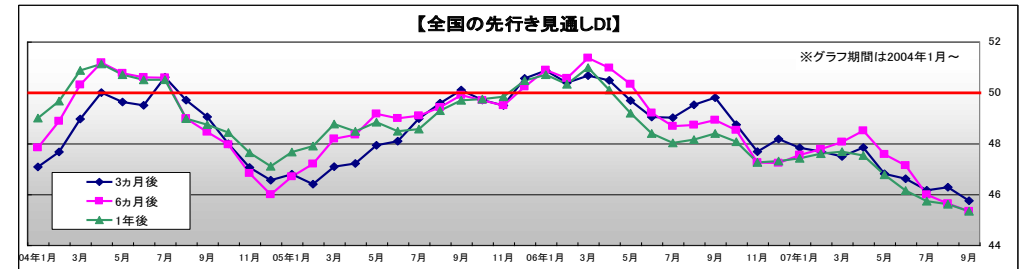
→【生産・出荷量DI】(48.6)は5カ月連続で50ポイント割れ。【設備投資意欲DI】(46.9)は2003年7月(46.8)以来4年2カ月ぶりに47ポイント割れ。政府も9月の月例経済報告で設備投資の判断を2年半ぶりに「弱い動き」へ下方修正

その他DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	06年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
生産・出荷量DI(対前年同月)	50.3	50.7	51.1	50.6	52.7	52.5	52.4	52.5	50.1	51.2	52.1	51.4	49.3	49.7	49.6	48.6	48.6	0.0
設備投資意欲DI(対前月)	50.2	49.7	49.3	49.6	49.7	49.4	49.0	49.3	48.8	49.0	49.2	49.2	48.2	47.9	47.5	47.4	46.9	▲0.5



	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
全体	46.9	46.9	47.9	47.6	47.0	46.0	46.0	46.7	46.5	46.3	45.6	45.5	44.8	44.9	45.5	45.3	43.8	43.2	42.7	42.5	41.9	▲0.6



	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
3ヵ月後	50.9	50.4	50.7	50.5	49.7	49.0	49.0	49.5	49.8	48.7	47.7	48.2	47.8	47.7	47.5	47.8	46.8	46.6	46.2	46.3	45.7	▲0.6
6ヵ月後	50.9	50.6	51.4	51.0	50.3	49.2	48.7	48.7	48.9	48.5	47.3	47.2	47.5	47.8	48.1	48.5	47.6	47.1	46.0	45.6	45.3	▲0.3
1年後	50.7	50.3	51.0	50.1	49.2	48.4	48.0	48.2	48.4	48.1	47.3	47.3	47.4	47.6	47.7	47.5	46.8	46.1	45.7	45.6	45.3	▲0.3

今後の見通し

先行き見通しDIは、2カ月ぶりに「3ヵ月後」「6ヵ月後」「1年後」ともに悪化、国内経済の先行きに対しても引き続き厳しい見方となっている。

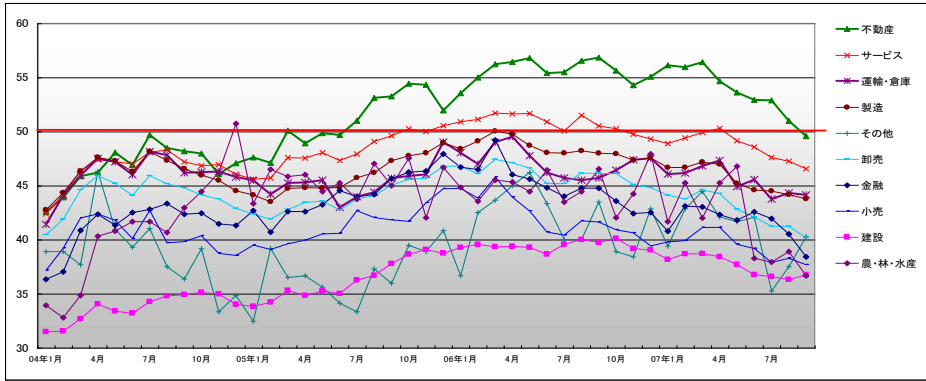
原油高リスクがさらに高まり、個人消費の回復のめども立たないなかで、米サブプライムローン問題に端を発した世界経済の下振れ懸念や円高進行などのリスクが顕在化し始めている。在庫調整圧力の緩和に伴う生産活動の再加速期待が高まっているとはいえ、こうした状況下では景気DIが改善傾向に転じるのは容易ではなく、しばらくは弱含みの展開が続くとみられる。

**業界別:10 業界中 8 業界で前月比悪化、
信用収縮への不安根強く『金融』、『不動産』は連続して大幅悪化**

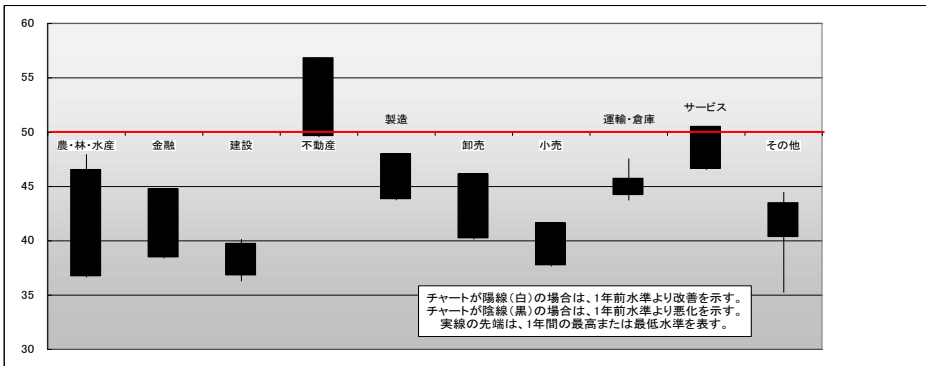
- 『建設』(36.8) …「脱談合」の加速などで業界環境は依然として改善せず、2007年6月20日の「改正建築基準法」施行に伴う着工遅れなども引き続き景況感の押し下げ要因となったものの、選挙終了による公共事業の発注再開が一部の企業のマインドを好転させ、前月比0.5ポイント増と7カ月ぶりに改善。
- 『金融』(38.4) …米サブプライムローン問題を契機とした世界的な信用収縮への懸念が根強いことに加え、消費者金融会社クレディアの倒産でノンバンクを中心に景況感が大幅に後退し、同2.1ポイント減と2カ月連続して大幅に悪化。2004年2月(37.0)以来3年7カ月ぶりに40ポイントを割り込む。

- 『不動産』(49.6) …信用収縮の懸念拡大の影響や「改正建築基準法」の影響が尾を引き、同1.4ポイント減と2カ月連続で悪化。2005年6月(49.7)以来2年3カ月ぶりに判断の分かれ目となる50ポイントを下回る。
- 『製造』(43.8) …原油高の進行に伴い鉄鋼関連や化学、飲食料品などの景況感が後退。また、円高リスクの高まりによって機械関連なども悪影響を受け、同0.4ポイント減と6カ月連続して悪化

業界別グラフ(2004年1月からの月別推移)



業界別グラフ(過去1年間の推移)



業界別景気DI

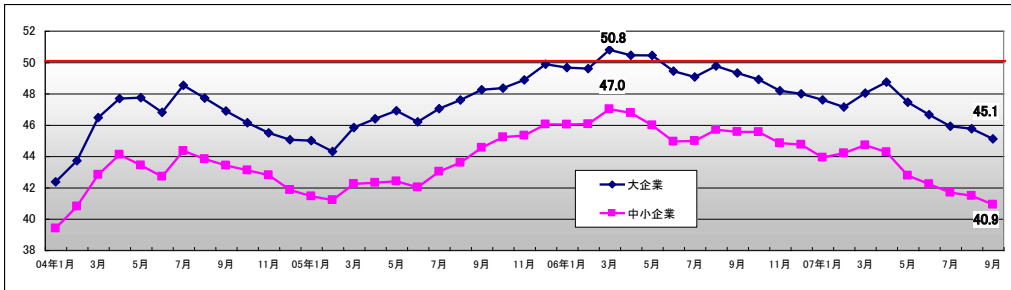
(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	06年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比	3カ月前	6カ月前	1年後	9月の標準偏差	
農・林・水産	44.4	46.4	43.5	44.4	46.5	42.0	44.2	47.9	41.7	45.2	42.0	45.2	46.8	38.3	37.9	38.9	36.7	▲2.2	40.0	41.2	38.7	42.7	14.9
金融	45.8	44.8	44.0	44.3	44.8	43.6	42.4	42.5	40.8	43.1	43.0	42.3	41.8	42.7	41.9	40.5	38.4	▲2.1	40.5	41.3	42.5	36.2	
建設	39.3	38.6	39.6	40.0	39.7	40.1	39.2	39.0	38.2	38.7	38.7	38.4	37.7	36.8	36.6	36.3	36.8	▲0.3	39.8	39.4	39.4	19.0	
不動産	56.8	55.4	55.5	56.6	56.8	55.6	54.3	55.1	56.1	56.0	56.4	54.6	53.6	52.9	52.9	51.0	49.6	▲1.4	51.2	49.8	48.5	16.0	
製造	43.1	41.6	40.9	40.9	41.1	41.3	41.2	39.7	39.2	38.4	40.0	41.3	40.1	39.1	38.4	39.2	37.8	▲1.4	42.7	42.4	44.0	15.0	
繊維・繊維製品・服飾品製造	41.3	42.0	42.2	43.0	41.7	42.0	40.3	39.5	38.1	38.0	39.3	40.4	37.8	39.1	39.5	39.0	39.5	▲0.5	43.3	44.0	45.0	16.0	
建材・家具・窯業・土石製品製造	40.4	38.9	40.5	40.8	41.0	41.9	40.7	42.4	41.4	41.9	41.1	40.4	37.7	36.6	36.1	37.2	35.7	▲1.5	42.3	41.8	41.1	20.0	
パルプ・紙・紙加工品製造	42.9	41.5	42.0	42.3	42.7	42.0	40.8	43.2	41.6	38.9	41.2	41.3	37.3	39.7	40.1	39.1	39.3	▲0.2	43.6	44.1	46.5	14.2	
出版・印刷	43.0	41.3	39.3	40.5	38.9	39.2	38.2	36.9	37.5	37.8	39.9	40.0	37.6	36.4	36.5	35.9	36.7	▲0.8	42.4	42.7	43.0	14.8	
化学工業	49.2	48.7	47.8	48.0	48.1	48.8	48.5	48.4	47.3	47.4	49.0	47.5	45.8	44.3	44.7	44.5	44.5	▲0.3	47.0	46.2	47.2	16.3	
鉄鋼・非鉄・鉱業	49.0	49.8	49.8	51.6	50.8	50.7	50.7	51.3	50.1	50.2	49.8	48.6	46.9	45.7	45.6	46.7	46.2	▲0.5	50.6	49.3	47.8	19.4	
機械製造	57.3	56.6	56.5	55.5	55.3	55.3	54.1	54.9	53.6	54.1	54.1	54.0	52.7	52.0	51.7	50.5	49.6	▲0.9	51.7	50.9	49.5	18.3	
電気機械製造	56.7	55.9	55.9	54.6	55.9	54.1	54.7	54.2	53.2	53.1	52.8	52.5	51.6	50.0	50.8	49.1	49.0	▲0.1	52.4	51.7	50.0	17.0	
輸送用機械・器具製造	57.1	57.8	58.9	58.0	58.0	56.4	57.3	60.6	58.5	59.8	57.5	57.9	56.2	56.9	56.2	56.9	56.2	▲0.1	56.1	54.1	53.3	19.6	
情報機械・医療機械・器具製造	51.7	48.3	51.4	51.7	49.1	49.8	46.9	47.1	46.6	47.4	48.7	48.0	47.4	47.1	44.9	46.5	48.9	▲2.4	49.8	47.6	46.3	16.5	
その他の製造	41.8	40.6	40.1	41.7	41.2	39.3	38.2	37.1	37.4	38.1	40.0	39.9	38.2	38.1	37.2	36.8	36.5	▲0.3	43.1	46.3	48.0	16.8	
全体	48.7	48.0	48.0	48.2	48.0	47.9	47.3	47.6	46.7	46.7	47.2	47.0	45.2	44.6	44.5	44.2	43.8	▲0.3	47.6	47.1	46.8	17.3	
卸売	42.2	41.5	41.2	42.9	42.9	41.1	40.6	40.1	38.8	38.0	40.2	41.3	40.4	41.2	39.1	39.1	39.4	▲0.3	44.7	44.3	45.2	15.3	
繊維・繊維製品・服飾品卸売	40.7	38.8	37.1	40.0	39.3	37.5	35.5	35.7	35.3	35.6	35.1	35.2	34.6	35.1	34.3	34.3	34.3	▲1.2	40.7	42.3	43.7	15.0	
建材・家具・窯業・土石製品卸売	40.2	39.3	39.1	40.3	41.0	41.1	40.6	40.7	38.8	39.2	39.7	39.0	37.1	35.9	34.7	34.4	33.1	▲1.3	40.5	40.6	41.5	17.1	
紙類・文具・書籍卸売	43.2	39.9	42.3	41.8	42.4	41.4	41.4	39.6	40.6	40.2	41.7	40.8	39.6	36.8	36.8	39.3	37.1	▲2.2	42.5	43.0	43.0	15.5	
化学工業卸売	50.3	48.1	48.1	49.2	48.9	48.8	47.2	46.8	47.8	46.8	48.4	47.7	46.2	45.7	44.9	44.6	43.8	▲0.8	46.0	45.9	46.2	14.8	
再生資源卸売	62.5	62.2	57.7	59.5	61.1	62.8	70.6	68.1	73.6	67.7	75.0	68.1	66.5	66.7	67.9	64.1	62.8	▲1.3	60.3	57.7	53.8	20.8	
鉄鋼・非鉄・鉱業卸売	46.1	45.9	46.2	48.2	47.8	49.8	49.2	48.5	48.1	47.6	46.9	44.4	42.5	42.3	41.3	42.0	40.2	▲1.8	45.5	45.3	44.2	19.7	
機械・器具卸売	51.7	49.9	50.2	50.8	50.6	50.7	49.3	49.3	48.8	48.4	48.7	48.9	47.0	46.3	45.1	44.2	42.5	▲0.9	47.5	47.1	46.6	16.6	
その他の卸売	45.2	43.7	43.7	43.3	43.6	43.2	41.7	42.1	40.6	41.0	43.1	42.6	41.7	40.6	40.6	40.4	38.8	▲1.6	43.7	43.3	44.8	17.3	
全体	46.6	45.2	45.2	46.2	46.1	46.1	44.8	44.4	43.8	44.6	44.3	42.8	42.1	41.3	41.2	40.2	39.4	▲1.0	44.9	44.7	45.0	16.7	
小売	45.2	45.0	44.5	46.6	43.8	42.6	41.5	41.3	41.8	41.5	42.6	43.6	42.0	39.9	41.7	41.7	39.3	▲2.4	41.7	43.5	44.8	15.1	
繊維・繊維製品・服飾品小売	41.9	42.2	40.8	39.4	44.8	41.2	43.5	39.7	38.2	43.2	41.3	40.8	40.8	41.3	37.4	38.6	38.2	▲0.4	43.9	44.4	44.3	13.2	
医薬品・日用雑貨品小売	44.6	44.8	46.0	48.9	45.2	48.4	45.1	48.8	43.2	44.6	47.3	45.2	46.6	44.2	39.7	44.9	39.9	▲5.6	49.3	45.7	44.9	14.5	
家具卸小売	40.6	42.7	41.7	39.4	41.7	36.1	41.7	35.7	38.9	40.0	45.0	38.9	38.5	40.7	35.9	34.6	42.4	▲7.8	47.0	50.0	47.0	13.0	
家電・情報機器小売	48.0	43.8	45.2	43.7	47.0	46.7	45.8	45.4	46.5	46.7	44.4	45.7	43.7	43.9	44.7	44.2	41.7	▲2.5	50.3	50.3	49.7	14.3	
自動車・同部品小売	42.0	37.8	39.7	40.8	36.8	37.7	38.1	34.1	33.7	35.6	37.2	38.8	34.4	33.7	34.0	32.7	36.8	▲4.1	40.6	37.2	38.5	16.7	
専門商品小売	38.0	35.6	33.7	35.2	35.7	35.5	35.1	34.3	35.4	34.6	37.0	36.4	35.4	34.7	32.1	33.9	33.1	▲0.8	38.6	38.8	40.9	17.0	
各種商品小売	37.3	44.4	44.4	47.1	48.3	45.2	43.8	43.3	46.0	42.8	45.9	44.4	43.5	45.1	44.3	42.1	42.2	▲0.1	46.1	46.1	46.9	13.7	
その他の小売	36.1	33.3	25.0	42.6	29.2	39.6	41.7	40.0	33.3	38.9	31.0	40.0	30.6	30.0	37.5	20.8	37.5	▲16.7	29.2	20.8	25.0	7.2	
全体	42.7	40.7	40.4	41.7	41.6	40.9	40.6	39.4	39.8	39.9	41.1	41.1	39.6	39.2	37.9	38.3	37.7	▲0.6	42.9	42.7	43.9	15.3	
運輸・倉庫	47.8	46.2	45.7	45.5	45.7	46.4	47.4	47.5	46.1	46.2	46.8	47.3	44.9	45.6	43.8	43.3	44.1	▲0.8	48.1	46.4	46.6	16.9	
飲食	50.0	49.4	47.5	52.1	50.0	50.0	43.7	38.4	41.1	44.8	47.8	48.3	47.3	46.8	43.1	41.9	41.7	▲0.2	46.1	47.1	48.5	15.5	
郵便・電気通信	54.8	55.6	52.4	53.3	52.4	55.6	52.4	52.2	54.2	52.2	54.2	53.6	52.9	54.2	53.8	52.6	52.6	▲0.3	53.8	52.6	52.6	12.3	
電気・ガス・水運・熱供給	50.0	53.8	53.8	56.1	51.2	47.4	50.0	48.8	47.2	45.8	50.0	45.0	40.0	50.0	46.3	45.8	46.3	▲0.5	50.0	49.8	48.1	6.9	
リース・賃貸	50.2	47.0	47.1	49.8	48.5	48.9	48.4	48.1	47.9	48.6	48.4	49.6	46.1	46.4	45.4	44.7	45.6	▲0.9	49.8	48.6	48.5	15.9	
旅館・ホテル	45.2	44.3	45.0	47.2	45.9	45.9	48.8	43.8	42.8	43.5	47.2	46.4	46.8	44.9	43.3	48.6	42.4	▲6.2	47.5	47.5	47.5	18.3	
旅客サービス	47.8	47.8	46.7	45.8	44.6	42.2	40.4	40.5	38.4	40.7	43.9	41.0	38.6	38.3	39.0	0.7	41.4	▲2.7	41.4	42.7	45.7	17.3	
放送	47.4	49.1	40.5	47.2	35.2	37.7	41.2	38.0	42.6	44.4	41.2	44.4	39.7	41.7	42.7	44.4	40.6	▲3.8	40.6	42.7	43.8	21.1	
メンテナンス・警備・警護	46.1	46.1	45.1	46.5	46.6	46.1	46.5	45.3	44.0	46.1	45.2	44.5	46.6	46.1	47.2	44.7	44.5	▲0.2	48.6	47.2	48.7	17.1	

規模別:大企業、中小企業ともに前月比悪化

- 大企業 (45.1) は前月比 0.7 ポイント減、中小企業 (40.9) は同 0.6 ポイント減とともに悪化。
- 規模間格差は 4.2 ポイントと前月 (4.3 ポイント) から 0.1 ポイント縮小したものの、集計開始の 2002 年 5 月以降で最大となった 2007 年 5 月 (4.6 ポイント) と比べ、引き続き高水準には変わらない。

規模別グラフ(2004年1月からの月別推移)



規模別景気DI

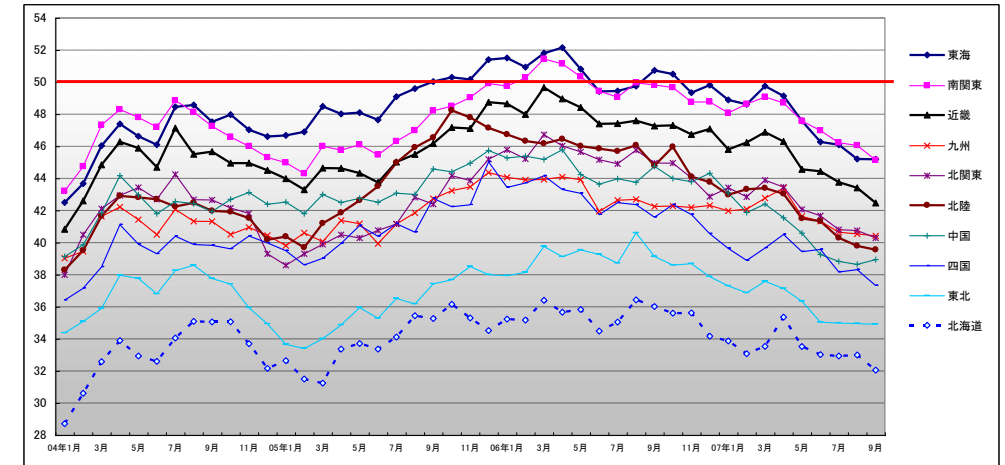
(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	06年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
大企業	50.4	49.4	49.1	49.8	49.3	48.9	48.2	48.0	47.6	47.1	48.0	48.7	47.4	46.7	45.9	45.8	45.1	▲0.7	47.9	47.6	47.4
中小企業	46.0	44.9	45.0	45.7	45.6	45.5	44.8	44.7	43.9	44.2	44.7	44.3	42.8	42.2	41.7	41.5	40.9	▲0.6	45.1	44.7	44.7

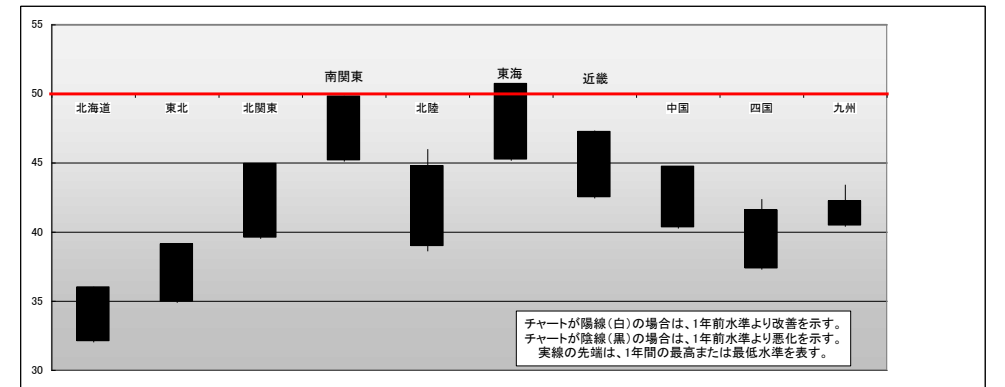
地域別:10地域中、前月比改善は『北陸』の1地域のみ、 地域間格差は前月と同水準で依然高水準

- 10地域中で前月比改善は『北陸』(38.9)の1地域のみで、『東海』(45.2)は横ばい、そのほか8地域は悪化。
- 『南関東』(45.1)と『近畿』(42.5)は、円高リスクの高まりなどによる大企業の景況感悪化の影響を受け、ともに前月より大幅に悪化。
- 一方、『東海』(45.2)は自動車の相次ぐモデルチェンジで自動車関連業界の景況感が下げ止まり、前月と同水準を維持。これにより、2007年5月に『南関東』と並んで10地域中の最高水準となって以来、4ヵ月ぶりにトップとなる。
→ 最高水準の『東海』と最低水準の『北海道』の景況感格差は13.1ポイントとなり、前月と同水準で依然として高水準な状況が続く。

地域別グラフ(2004年1月からの月別推移)



地域別グラフ(過去1年間の推移)



地域別景気DI

(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	06年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
北海道	35.8	34.5	35.0	36.4	36.0	35.6	35.6	34.2	33.9	33.1	33.5	35.4	33.5	33.0	32.9	33.0	32.1	▲0.9	37.4	37.1	39.6
東北	39.5	39.3	38.7	40.6	39.1	38.6	38.7	37.9	37.3	36.9	37.6	37.1	36.3	35.0	35.0	35.0	34.9	▲0.1	40.3	38.8	40.7
北関東	45.7	45.2	44.9	45.8	45.0	45.0	44.0	42.9	43.0	43.3	43.4	43.0	41.5	41.3	40.3	39.8	39.6	▲0.2	44.5	44.7	45.2
南関東	50.3	49.4	49.1	50.0	49.8	49.7	48.8	48.8	48.1	48.6	49.1	48.7	47.6	47.0	46.2	46.1	45.1	▲1.0	48.3	48.1	47.8
北陸	46.0	45.9	45.7	46.1	44.8	46.0	44.1	43.8	43.1	41.9	42.4	41.5	40.6	39.3	38.8	38.6	38.9	▲0.3	42.9	41.8	42.5
東海	50.8	49.4	49.5	49.8	50.7	50.5	49.3	49.8	48.9	48.6	49.8	49.1	47.6	46.3	46.1	45.2	45.2	▲0.6	48.3	47.0	45.5
近畿	48.4	47.4	47.4	47.6	47.3	47.3	46.7	47.1	45.8	46.2	46.9	46.3	44.6	44.4	43.5	43.4	42.5	▲0.9	47.0	46.9	46.4
中国	44.2	43.6	44.0	43.8	44.8	44.0	43.8	44.3	43.4	42.8	43.9	43.5	42.1	41.7	40.8	40.8	40.3	▲0.5	43.7	43.4	43.2
四国	43.1	41.7	42.5	42.4	41.6	42.1	41.7	40.5	39.6	38.9	39.7	40.5	39.4	39.6	38.2	38.3	37.3	▲1.0	41.1	41.8	42.2
九州	43.9	41.9	42.6	42.7	42.2	42.3	42.2	42.3	42.0	42.1	42.8	43.4	41.6	41.3	40.6	40.5	40.4	▲0.1	44.4	44.0	44.3

業界別の景況感「現在」(2007年9月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 (○=良いと判断した理由、△=どちらでもない理由、×=悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
農・林・水産	37.9	38.9	36.7	<ul style="list-style-type: none"> × ホタテ貝が減産となり、加工原料の確保ができず厳しい。一方、加工製品の消費が鈍く経営は非常に厳しく、雇用水準も低位となっている(漁協) × 生産コストの約7割を占める飼料が高止まりしており、コストアップ分が食鳥相場に反映されていない。過当競争により価格転嫁も難しい状況(養鶏)
金融	41.9	40.5	38.4	<ul style="list-style-type: none"> × 企業倒産が多数発生。2006年より個人再生、自己破産が増加している。住宅確認申請の大幅な減少。資金需要が極めて弱い(信用金庫) × 貸金業法の改正で、小さい地元の業者は経営できなくなる。従って廃業するしか道はない。大手と中小の格差が大きくなり、大手は銀行とタイアップできるが、小さい企業は潰れる。ますます格差社会になり、治安が悪くなる(事業者向け貸金業)
建設	36.6	36.3	36.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設計・積算・発注の依頼が先月と変わらず多い(電気工事) × 公共事業の減少に加えて、一般競争入札導入により競争が激化、利益率の低下により、業況が悪い企業が多い(土木工事) × 建築基準法、建築士法、また、京都においては新景観法等、矢継ぎ早な法改正により、期中の活動に与える影響は甚大である(土木工事) × 建築基準法等の改正で許可の滞りが大きく、仕事があっても工事にかけられない等の影響が大きい(建設工事)
不動産	52.9	51.0	49.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商業地の地価の値上がりが続いている(貸事務所/東京都) × 原価上昇による販売価格の上昇に伴い、消費者動向が悪くなってきている(建物売買) × 厳しい暑さの影響で、テナントの衣料品店の売り上げに悪影響が出ている(貸事務所) × 分譲マンションの契約率低下が顕在化している(不動産分譲/大阪)
製造	44.5	44.2	43.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自動車部品・建機部品は、良い状態で推移している(工業用ゴム製品製造) ○ 欧州を中心とした外需が非常に好調で、国内需要の低下以上に伸びている(工作機械製造) × 洋紙の値上げ、諸材料の値上げ等で利益率が低下(印刷) × 原油価格高騰に伴う原料レジン値上げを製品価格へ転嫁できず収益悪化。中国・東南アジアからの安価な製品の流入、環境問題意識の向上や人口減少による需要低下(プラスチックフィルム製造) × 猛暑・台風の影響で農業生産量・額が減少している(肥料製造) × 原材料費の高騰と消費低迷、量販店の価格変更拒否(食品製造)

業界名	景気DI			判断理由 (○=良いと判断した理由、△=どちらでもない理由、×=悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
卸売	41.3	41.2	40.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 油圧機器類の中国向け輸出好調(機械器具卸) ○ 非鉄金属の高騰が続いている(スクラップ卸) × 流通の規制緩和進行で中小、零細企業は厳しい(酒類卸) × 食の安全に直接関わる業界であり、中国からの輸入品は非常に厳しい状況。たとえ自社の商品に問題がなくても「中国製」というだけで一般消費者が逃げ、バイヤーが敬遠する(乾物卸) × 魚価高、ロシアの規制強化、国内の魚離れで利益率が低下。頼みの高齢者の魚消費も少量多品種のため売上増につながっていない(生鮮卸)
小売	37.9	38.3	37.7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 販売台数が伸びている(中古自動車小売) × 自動車販売は構造不況の真っ只中にあり、どんな手段でも歯止めがかからない(新車販売) × 猛暑期間が長く秋物の販売が遅れている(婦人・子供服小売) × 仕入れ価格が上昇しても、競争激しく価格転嫁できない(ガソリンスタンド) × 新潟県長岡市においては、7月に発生した中越沖地震の影響により県外客が激減し、その後の回復も思わしくない(鮮魚小売)
運輸・倉庫	43.8	44.3	44.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米作農家用の軽油・灯油の配送量が増えてきた(一般貨物自動車運送) ○ 車の手配がつかなくなってきた(特定貨物自動車運送) ○ この秋は団体の職場旅行などがやや回復したと思われる(旅行代理店) △ 業界の中でも、地方と都市部の格差が顕著になっている(沿海貨物海運) × 原価の主要項目である燃料費と人件費が高騰してきており、これが売価に反映できない(一般貨物自動車運送) × タクシー運賃の改定が遅れているため、稼働率の回復がしばらく望めない(タクシー業)
サービス	47.6	47.3	46.6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 造船・機械メーカーの好調を受けて引き合いも多く受注は増加している。手がまわらず断るケースも出ている(一般機械修理) × 広告掲載がよりコスト効率の良いメディアに移行している。既存メディアの衰退が急ピッチに進む(広告代理) × 地デジのスタート前の買い控えがみられる(有線テレビジョン放送) × 技術者の高齢化。良い人材(新卒、中途)が確保できないため、主流のオープン系システム受注に影響を及ぼしている(受託開発ソフトウェア) × 環境問題およびリサイクル化の流れのなかで、廃棄物の量が減少傾向にある(産業廃棄物処分)

※「判断理由」については自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

業界別の景況感「先行き」(2007年9月調査分)

業界名	先行き見通しDI			判断理由 (○=良いと判断した理由、△=どちらでもない理由、×=悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
農・林・水産	△ 年末の需要拡大が期待できる。ただし、シカゴの穀物相場が作付け面積、作柄状況以外の要因で値動きしており、先行き不透明。今後のエタノール向け需要拡大がどこまで進むのか、また、地方経済や末端消費の回復基調を見極めなければならない(養鶏)			
	3か月後	42.5	40.7	40.0
	6か月後	42.0	43.2	38.7
	1年後	45.4	43.8	42.7
金融	× 当面は景気回復感は望めないという実感が強い(漁協)			
	× 地方は土木・建設関連業種が多く、景気回復のメイン産業である製造業が少ないため、回復の兆しがない(信用金庫)			
	× 原価上昇による売値のアップにユーザーがついていけない状況が続く(不動産金融)			
	3か月後	43.9	43.0	40.6
建設	○ 消費税・金利上昇前の駆け込み需要(新築住宅・アパート等)に期待できる(管工事)			
	× 建築基準法改正により建築確認が遅れているため、工事が期中に完成できない案件が多くなる(建設工事)			
	× 発注者のコストダウン要請が強いほか、資材の価格や労務費の高騰も加わって、採算が先行き悪化することが予想される(電気工事)			
	3か月後	39.9	40.0	39.8
不動産	○ 金利の据置傾向により、消費者購入意欲の回復期待がある(不動産仲介)			
	× 1年後の金利水準が不透明(貸事務所)			
	× 米サブプライムローン問題の影響による不動産貸付の縮小(貸事務所)			
	× 政局、経済とも不透明なため(不動産代理・仲介)			
製造	× 供給過多、原価高騰の影響が長引く(建物売買)			
	3か月後	53.7	51.8	51.2
	6か月後	51.5	50.6	49.8
	1年後	49.8	49.0	48.5
製造	○ 原材料価額は落ち着きを取り戻し、取引拡大が見込まれる(アルミ合金製造)			
	○ シリコンウエハーの用途である半導体、太陽電池ともに生産が追いつかない状態が続くとみている(伸線業)			
	× 石油原油の高騰、金属市況の高止まり、金利上昇懸念など先行きの景気悪化懸念がある(製缶)			
	3か月後	47.9	48.0	47.6
製造	× 米国景気の先行き懸念の増幅(金属製品製造)			
	6か月後	47.7	47.3	47.1
	1年後	47.0	46.9	46.8
製造	× 海外からの圧倒的な輸入製品にシェアを奪われており、どうなっていくかわからない(皮製品製造)			

業界名	先行き見通しDI			判断理由 (○=良いと判断した理由、△=どちらでもない理由、×=悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
卸売	× 海外生産商品との競争により、生産地コストが出荷価格に転嫁できず、収益面で苦しい状況が続く(精密機械器具卸)			
	× 米景気は明らかに下り坂で遠からず影響が出てくると思う。中国も結局、輸出で稼いでいるため、玉突き式に悪化が懸念される(金属加工機械卸)			
	× 地元の人口減少、高齢化率の上昇で地元消費は減少。また、地元の基幹産業も状況が悪く、景気回復の材料が見当たらない(食肉卸)			
	3か月後	45.6	45.8	44.9
卸売	× 改正建築基準法による住宅着工減の回復には期間を要する(建材卸)			
	6か月後	45.5	45.1	44.7
	1年後	45.6	45.5	45.0
小売	○ ウィンドウズビスタの法人需要の伸び(情報家電小売)			
	× 飲酒運転の罰則強化で、業務用酒類卸や飲食業界にはかなりの逆風が吹いている(酒小売)			
	× 原材料費高騰の悪影響があるが、価格改定ができない(パン小売)			
	× 個人所得の目減りで自動車の販売台数が今後大きく増えるとは思えない(新車販売)			
運輸・倉庫	○ 大きな流れでは増収になっているが、利益が伴っていない。利益率の良い案件に絞って獲得していく必要がある(一般貨物自動車運送)			
	△ 食品業界で商品の値上げをしているのは、物流業界にとっては明るい材料(特定貨物自動車運送)			
	× 年内の料金改定は無理と想定(タクシー業)			
	× 円安・原油値上がりで航空輸入の需要悪化(運送代理店)			
サービス	○ 携帯電話やユビキタスといった新分野の開発が順調に伸びるため(受託開発ソフトウェア)			
	○ セキュリティサービスに関しては、引き合い状況から今後も良い方向に向くと思われる(電気通信に付帯するサービス)			
	× 消費者の先行き不安増大および不透明感が払拭される政策が期待できない(すし店)			
	× 官公庁、特に土木事業が発注されない限り、景気回復の見込みはない(土木建築サービス)			
サービス	× 来春の診療報酬改定でさらにマイナスになる恐れがある(一般病院)			
	3か月後	49.7	49.8	49.4
	6か月後	49.4	49.1	49.0
サービス	1年後			
サービス	48.5	48.6	48.5	

※「判断理由」については自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万717社、有効回答企業9,863社、回答率47.6%)

(1) 地域

北海道	520	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	1,020
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	590	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,598
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	603	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	640
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,395	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	297
北陸(新潟 富山 石川 福井)	464	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	736
		合計	9,863

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	25	小売	飲食料点小売業	64	
金融	115		繊維・繊維製品・服飾品小売業	38	
建設	1,263		医薬品・日用雑貨品小売業	23	
不動産	235		家具類小売業	11	
製造	飲食料品・飼料製造業	347	家電・情報機器小売業	52	
	繊維・繊維製品・服飾品製造業	114	自動車・同部品小売業	48	
	建材・家具・窯業・土石製品製造業	243	専門商品小売業	133	
	パルプ・紙・紙加工品製造業	101	各種商品小売業	64	
	出版・印刷	207	その他の小売業	4	
	化学品製造業	372	運輸・倉庫	353	
	鉄鋼・非鉄・鋳業	446	飲食店	34	
	機械製造業	432	郵便業、電気通信業	13	
	電気機械製造業	346	電気・ガス・水道・熱供給業	9	
	輸送用機械・器具製造業	82	リース・賃貸業	160	
(2,856)	精密機械・医療機械・器具製造業	76	旅館・ホテル	33	
	その他製造業	90	娯楽サービス	62	
	卸売	飲食料品卸売業	354	放送業	16
	繊維・繊維製品・服飾品卸売業	215	メンテナンス・警備・検査業	119	
	建材・家具・窯業・土石製品卸売業	415	広告関連業	138	
	紙類・文具・書籍卸売業	114	情報サービス業	346	
	化学品卸売業	294	人材派遣・紹介業	36	
	再生資源卸売業	13	専門サービス業	182	
	鉄鋼・非鉄・鋳業製品卸売業	367	医療・福祉・保健衛生業	73	
	機械・器具卸売業	1,032	教育サービス業	16	
(3,204)	その他の卸売業	400	その他サービス業	114	
	その他			24	
		合計		9,863	

(3) 規模

大企業	2,260	22.9%
中小企業	7,603	77.1%
合計	9,863	100.0%
(うち上場企業)	(393)	(4.0%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在、3カ月後・6カ月後・1年後)
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足感、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢について
- ・「責任共有制度」の導入に対する企業への影響調査

3. 調査時期・方式

2007年9月19日～30日(インターネットリサーチ方式)

DI(景気動向指数)について

■調査目的・調査項目

TDB 景気動向調査は、「国内景気の実態把握」を主目的として、各業界の現況・先行きに関する判断や各企業の業績・環境など、企業活動全般に関する調査項目について全国2万社以上を対象に月次で実施する統計調査(ビジネス・サーベイ)で、2002年5月から実施している。

■調査先企業の選定

調査先企業は全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index))は、調査先企業による7段階の判断に、それぞれ下表カッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。

非常に悪い (0)	悪い (1/6)	やや悪い (2/6)	どちらともいえない (3/6)	やや良い (4/6)	良い (5/6)	非常に良い (6/6)
0	16.7	33.3	DI=50 判断の分かれ目	66.7	83.3	100

50を境にそれより上であれば「良い」超過、下であれば「悪い」超過を意味し、50が判断の分かれ目となる。なお、小数点第2位を四捨五入している。また、DIの算出においては、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っておらず、「1社1票」の単純平均の形をとっている。

■企業規模区分

大・中小企業の分類については、中小企業基本法に基づいて業種別に以下のとおり設定している。

業界名	大企業	中小企業
製造業・その他の業種*	資本金:3億円を超える かつ 従業員数:300人を超える	資本金:3億円以下 または 従業員:300人以下
卸売業	資本金:1億円を超える かつ 従業員数:100人を超える	資本金:1億円以下 または 従業員:100人以下
小売業	資本金:5千万円を超える かつ 従業員:50人を超える	資本金:5千万円以下 または 従業員:50人以下
サービス業**	資本金:5千万円を超える かつ 従業員:100人を超える	資本金5千万円以下 または 従業員:100人以下

* **その他の業種**には、鉱業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、金融・保険業、不動産業が含まれます。
** **サービス業**には、クリーニング業、物品賃貸業など、日本標準産業分類の大分類上サービス業に分類される業種が該当します。

©TEIKOKU DATABANK,LTD.2007

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。